2025 年度 秋冬学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

大阪大学人間科学部・人間科学研究科

授業改善アンケート調査結果

１．授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004 年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016 年にグローバル 30 人間科学コース（以下、G30）、2017 年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。2020-2021 年度は、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から授業がオンライン化したことをうけ、QR コードを利用した非接触型の WEB 方式に切り替えたが、WEB 方式での回答率の低さを改善すべく、2022 年度春夏学期からは、すべてマークシート方式に変更した。

2025 年度秋冬学期アンケート回答期間：2026 年 1 月 5 日（月）～2 月 6 日（金）

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で開講されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。ただし科目の性格等を踏まえてアンケートを実施していないものもある。アンケート実施科目数・回答数と回収率は以下の通りである。なお、受講登録者数に対する回収率は、66.5%であった（参考：2024 年度春夏学期 69.8%、同年度秋冬学期 64.8%）。

2025 年度秋冬学期授業改善アンケート　実施科目数・回答数

		実施科目数	回答数
学部科目	共通科目	4	259
	行動系科目	12	366
	社会人間系科目	8	221
	教育系科目	10	268
	共生系科目	6	151
大学院科目	共通科目	4	29
	行動系科目	1	5
	社会人間系科目	2	15
	教育系科目	8	51
	共生系科目	2	9
G30 科目		16	136
計		73	1510

回収数 1510／受講登録者数 2269＝回収率 66.5%

※1　基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。
※2　受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに 2010 年度後期

大阪大学人間科学部・人間科学研究科
より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

２．授業改善アンケートの結果

2020-2021 年度は、全科目をアンケート実施対象科目とし、QR コードを利用した非接触型の WEB 方式に切り替えたが、WEB 方式での回答率の低さを改善すべく、2022 度よりすべてマークシート方式に変更した。その結果、2021 年度秋冬学期の授業改善アンケート回収率 20.6%から、2022 年度春夏学期は 72.2%（51.6 ポイント上昇）、2022 年度秋冬学期は 71.8%（51.2 ポイント上昇）となり、大幅な改善をみせた。2025 年度秋冬学期も 66.5%と、2022 年度よりは若干落ちるものの、比較的高い回収率を保っている。

主要な質問項目である､授業の満足度についての問 10｢この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、平均が 4.36（2024 年度秋冬学期 4.32）と昨年度同時期と同様に高い値となった。問９「この授業で学問的知識が身についたと思いますか」については､「強くそう思う」と回答している学生の割合が昨年度同時期よりも 1.2 ポイント減少しているものの（27.5%→26.3%)､「そう思う」と回答している学生の割合は 1.5 ポイント増加している（63.7%→65.2%)。全体として、学生の期待に応える高水準の授業を実施できているといえるが、学生のより深い学問的知識の習得のための工夫が必要と考えられる。

満足度に関する問 9、問 10 以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問１の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては､「80%以上出席」が 81.8%（2024 年度秋冬学期 79.5%）と昨年度同様の高い値となったが、2020 年後期の 91.4%よりも大幅に減少している。新型コロナウィルス感染拡大防止の観点からオンライン授業が中心であった 2021 年度の結果と、対面授業やブレンデッド授業が中心となった現在の状況は、単純に比較できないとはいえ、出席率の向上は今後の課題である。問２の「この授業の予習・復習にあてた１週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については、今回「ほとんどなし」と答えたのは 23.4%となり、昨年度同時期の 29.0%と比べると改善は見られるものの、全体の 1/5 を越える高い割合となっている。学生がより一層授業内容に関心を持ち、積極的に授業時間外に学習を行い、学問への知見を深めていくように、教員は授業において様々な工夫を行う必要があると考えられる。

また、授業内容の難易度を尋ねる問３「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」という回答が 73.8%と昨年度同時期（74.6%）と同様の高水準となった。ただし、授業内容の理解度を尋ねる問４「授業内容はよく理解できましたか？」に対しては「強くそう思う」が 14.9%､「そう思う」は 67.4%と高水準ではあるものの、昨年度同時期の「強くそう思う」が 17.2%､「そう思う」は 65.3%であり､「強くそう思う」は微減している。問８「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は「強くそう思う」が 34.7%､「そう思う」は 58.7%で、昨年度同時期の「強くそう思う」34.1%､「そう思う」57.6%と同水準だった。全体としては学生の期待に応える高い水準の授業を実施しているといえるものの、授業準備により一層工夫し、学生の出席率、時間外学習時間、授業理解度を向上させ、より深い学問的知識の習得に導く工夫が求められている。

以下より、2025 年度秋冬学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

※学系別集計については以下のように集計している。

・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。

・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。

・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。

・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。

大阪大学人間科学部・人間科学研究科

・各学系によって１科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

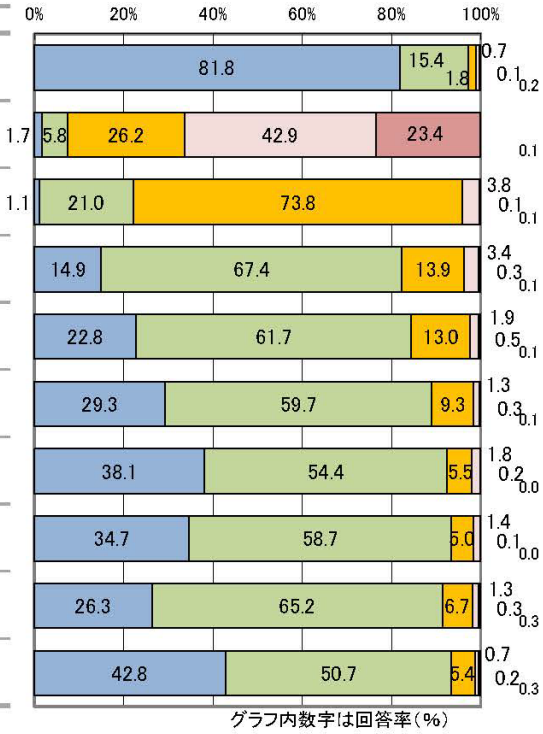
授業改善アンケート

大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
2025年度秋学期

全体集計

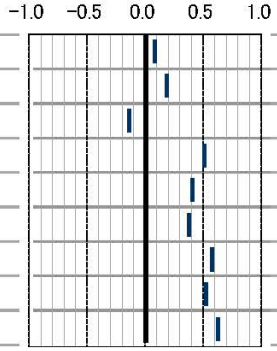
履修者数	2269
回答数	1510
回答率	66.5%

番号	内容	全体平均
1	この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？	4.78
2	この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？	2.19
3	授業内容の難易度はどうでしたか？	3.19
4	授業内容はよく理解できましたか？	3.93
5	授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？	4.05
6	授業はシラバスに沿って展開されましたか？	4.17
7	授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？	4.28
8	授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？	4.26
9	この授業で学問的知識が身についたと思いますか？	4.16
10	この授業は全体として良い授業だったと思いますか？	4.36



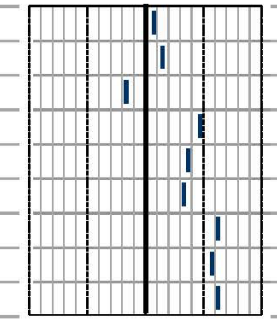
グラフ内数字は回答率（%）

【Q9との相関】



		相関係数
Q1	出席率	0.082
Q2	予習・復習の時間	0.188
Q3	授業の難易度	-0.141
Q4	授業の理解度	0.510
Q5	シラバスの内容	0.409
Q6	シラバスとの整合	0.374
Q7	興味・関心	0.574
Q8	授業方法と資料	0.526
Q10	総合評価	0.629

【Q10との相関】

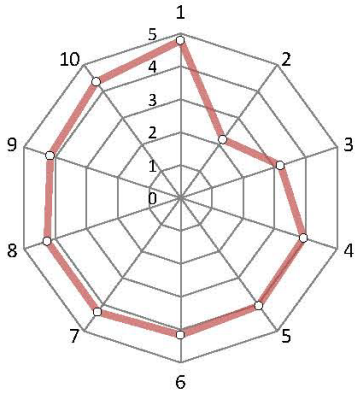


		相関係数
Q1	出席率	0.074
Q2	予習・復習の時間	0.150
Q3	授業の難易度	-0.163
Q4	授業の理解度	0.474
Q5	シラバスの内容	0.368
Q6	シラバスとの整合	0.331
Q7	興味・関心	0.627
Q8	授業方法と資料	0.573
Q9	学問的知識	0.629

回答凡例						
配点	5	4	3	2	1	－
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「－」は計算不能を示します。（例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど）

【質問別得点】



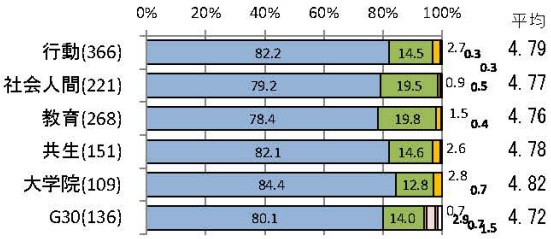
大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート　2025年度秋学期

学系別集計【全体】

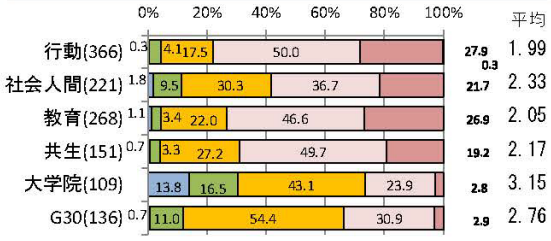
※グラフ内数字は回答率（%）

回答凡例						
配点	5	4	3	2	1	－
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

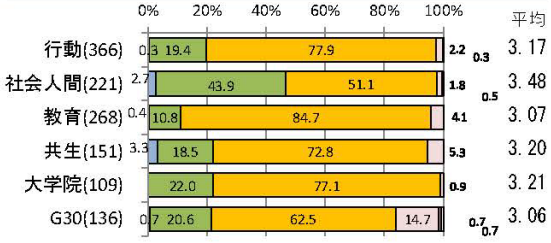
1．この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



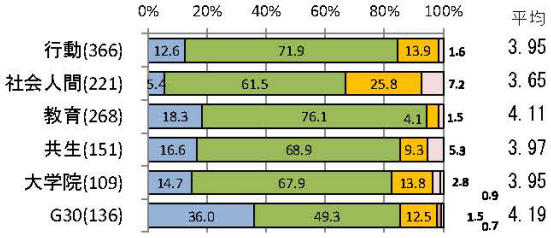
2．この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



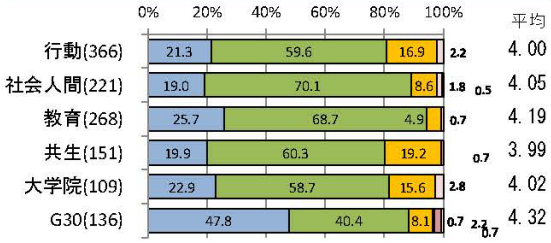
3．授業内容の難易度はどうでしたか？



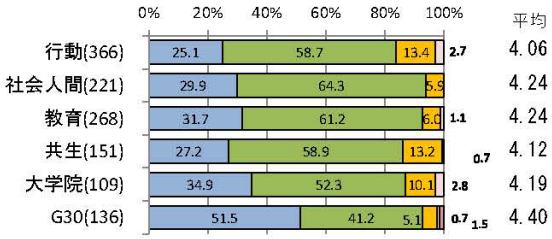
4．授業内容はよく理解できましたか？



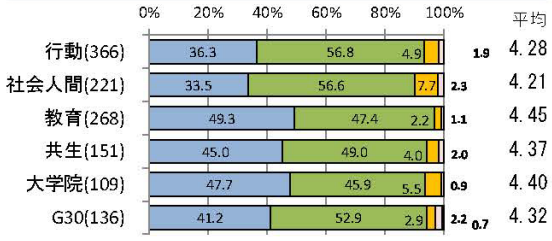
5．授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の 内容を知るのに役立ちましたか？



6．授業はシラバスに沿って展開されましたか？

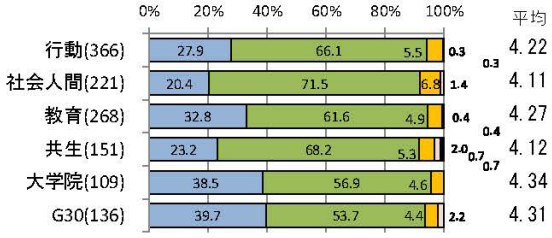


7．授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



8．授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？

9．この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



10．この授業は全体として良い授業だったと思いますか？

＜満足度上位の科目＞

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 73 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は学部・G30 で 38 科目、大学院で 3 科目であり、そのうち平均値 4.36 を上回ったのは学部・G30 で 20 科目、大学院で 3 科目であった。

2025 年度秋冬学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部・G30】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	教育法学	20	4.85
2	教育哲学	18	4.78
2	Diversity and Human Rights in Japan	10	4.70
4	福祉社会論	18	4.67
5	教育文化学	32	4.63
5	学校社会学	38	4.61
7	人間変容論 II	20	4.60
8	共生社会論Ⅲ	32	4.56
8	教育社会学	40	4.55
10	生物人類学	20	4.55

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	教育分野に関する理論と支援の展開	15	4.80
2	学校社会学特講	11	4.73
3	心理実践実習Ⅲ	12	4.58

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

【行動学系】

中井宏

対象科目への評価は概ね好評だったようで、楽しく受講してもらえたようだ。ただし、51 講義室の中央スクリーンが使えないことは教育環境的によろしくないと思うので、何とか予算措置して修繕してもらいたい。

入戸野　宏

「基礎心理学（知覚・認知心理学）」は担当から 3 年目である。海外の心理学教科書（オンライン版）を利用して包括的な知識を提供することをめざした。毎回グループディスカッションを取り入れ，毎回そのテーマについての意見や感想を CLE で提出してもらった。学生の授業評価は平均的であったので，次年度以降は微調整を加えながら実施していく。

西村剛

生物人類学については、概ね全体平均より高い評価をいただいた。シラバスの内容について 2 の評価がある点は反省を要する。シラバスの内容及び計画について、内容を再度確認して、改善に努めたい。

篠原　一光

応用認知心理学（知覚・認知心理学）：全体としてはよい評価だったと思われるが、予習復習時間については改善が必要と思われる。適切な課題を出すことで、特に復習を促すように工夫を行いたい。

鹿子木康弘

アンケート結果を見ると、講義系の授業では、おおむね好意的な評価を受けている。しかし、毎年の懸念事項である、予習・復習の時間が短い学生が散見された。講義系の科目なので予習・復習に負荷をかけるべきか難しい側面もあるが、今年度からは小テストを設けて、復習の時間を増加させることを目的とした。しかし、それほど機能していないようであった。来年度は、小テストの難易度を上げて、復習の時間を増加を目指したい。

平井　啓

今年度の「認知行動工学」において前半はディスカッションを取り入れて授業運営を行ったが、後半からはリアクションペーパーへのフィードバックと講義を中心とした授業運営を行った。来年度は、これらのバランスを取った授業運営を行っていきたい。

山本倫生

一度講義や演習を受講しただけでは統計学の理論的な部分まですべてを理解することは困難ですが、受講者は各自でしっかりと取り組み、授業内容を習得していたように思います。今後学習を継続することでさらに理解を深めていくことを期待しています。

青野　正二

レーダーチャートにおいて、担当科目の質問別得点と全体平均の質問別得点を比較すると、いずれの質問においてもほぼ同程度の結果が得られた。おそらく、数年にわたり、授業内容の構成や配付資料を整備することで徐々に改善されてきた結果であると思われる。（担当科目：環境評価論）

【教育学系】

藤野　陽生

次年度に向けて、内容の整理を進め、必要な内容を含めつつ参加者の授業参加を高められるように改善を図っていきたい。

佐々木　淳

臨床心理学概論のアンケートを拝見しました。一定の学習効果があったように見受けられ、安心しました。今後も内容の充実に励みたいと思います。

野坂　祐子

積極的に受講いただけてよかったです。授業時間外での自主学習については、教員の指示（宿題や課題）がなくても、主体的に取り組むことを期待します。

高橋哲

教育法学：受講者の関心と授業内容が一定マッチしていることが分かったが、予習、復習時間がほとんどないことが示されているため、これを促すための工夫をしたい。

野村晴夫

臨床心理面接特講Ⅱ：概ね及第点のようですが，授業時間外の学習等，さらなる充実を図ります。

岡部　美香
ご意見をありがとうございます。授業がおもしろいと言ってもらえて嬉しいです。授業の内容を数年かけてテキストにまとめようと思っていますので、それが資料の代わりになるようにしていこうと考えています。

藤川　信夫
全般に平均値を若干上回る評価であった。次年度も引き続き努力したい。

【共生学系】

稲場　圭信
全体としてよい授業だったと評価を頂きました。次年度も継続していきます。スライドの資料をほしいとの要望もありますが、私の授業は自分でノートを取ることを推奨しています。

【社会学・人間学系】

辻大介
″今年度で阪大人科を退職します。 最後まで授業にやりがいを感じ続けることができました。 皆さんに感謝です。ありがとう！″。

【その他（学系外）】

米田翼
授業全体の満足度に関しては全体平均よりも高く高評価であったが、理解度についてはやや低い結果となったため、次回からは学生の理解度を把握しながら授業を進めるよう改善したい。

高田紗英子
心理実践実習では、実習先での経験を振り返りながら、心理職としての基本的態度や倫理、アセスメントの視点について検討することを目的として授業を行った。授業では学生同士のディスカッションや事例の共有を取り入れ、実習経験を理論と結びつけて理解する機会を設けた。授業評価アンケートの結果からは、実習での体験を整理し、心理職としての視点を深める機会になったのではないかと思う。

２０２５年度秋冬学期人間科学研究科／人間科学部　授業アンケート回答結果 計１９名分